

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念と職員により作られたかみやまだ敬老園の理念がある。職員会議には必ず唱和し、理念を共有し日々のケア・業務を行っている。	理念についてはホールに掲示し、スタッフ会議の席上唱和し共有と実践に繋げている。職員は理念の持つ意味を良く理解し日々の支援に取り組んでいる。家族に対しては利用契約時に理念に沿った支援について説明をしている。また、「みんな仲良く、健康に一日一日大切に」という利用者と職員の合言葉をホール正面壁に掲示し、朝食後に共に唱和し一つの家族として生活している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在コロナ禍にあり、地域の皆さんとの交流の場を持っていないが、通常は、運営推進会議や地域の清掃活動・防災訓練などに参加しつながりを持っている。	開設以来自治会費を納め、回覧板も回していただき地域の一員として参加出来る行事には参加している。毎年度、地域の清掃活動、防災訓練に参加しているが、今年度は新型コロナの影響を受け中止となっている。そのような中、春には近くの公園で桜の花見を行い地域の皆様との交流を楽しんでいる。また、短期大学の学生2名が初任者研修のため2日間来訪し、介護全般にわたり実習を行い、利用者ともふれあっている。コロナ禍の状況が続く各種ボランティアの受け入れができない状況であるが収束後には再開する予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	共用型デイサービス事業も行っているため、ご家族から認知症のご利用者に対する支援方法など相談されお話すことも有る。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	通常は、2カ月に1回開催して取り組みや状況報告しご意見をいただき、運営に生かしている。現在は、状況や研修の報告を報告書にして各運営推進会議委員様に提出している。	通常であれば利用者代表、家族代表、自治会長、民生委員2名、消防団長、市職員、ホーム関係者の出席で2ヶ月に1回開催しているが、現在は新型コロナの影響を受け書面での開催となり「利用状況」「事故報告」「行事報告」「職員の異動報告」等を書面にして会議参加メンバーに届け、意見・要望をいただくようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	通常は、運営会議に出席していただき活動報告している。また千曲市の介護相談員も毎月来園して下さるので状況報告している。千曲市介護保険連絡協議会施設部会へ出席している。	市高齢福祉課には新型コロナの感染予防等必要に応じ訪問し連携を取っている。毎月の介護相談員の来訪を楽しみに心待ちにしているが、現在はコロナの影響を受け中止という残念な状況が続いており収束後にはまた再開する予定であるという。介護認定更新調査は調査員がホームに来訪し職員が対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を定期的に開催しテーマを決めて話し合いや研修を行い、身体拘束をしないケアに向けて取り組んでいる。本年度のテーマはスピーチロックについて皆で話し合いを行っている。		

グループホームかみやまだ敬老園

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について、定期的に研修で学ぶ機会を持ち、虐待をしない、見過ごさないよう防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を読み合わせている。必要を感じた場合職員間で話し合い関係者に相談していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居・改定の際は、契約書面を読みながら充分説明し、質問を受けながら契約締結している。退居の際も住まい替え先の施設と連携をとり、不安なく生活できるよう支援している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	通常は、運営推進会議に入居者代表、家族代表が出席している。市の介護相談員訪問時は入居者がお話した事など伝えていただき職員皆で共有しケアに役立てている。年2回家族会を開催しご意見ご希望をお伺いし運営に反映させている。	意思表示の難しい利用者があるがきめ細かな声掛けを行いその都度提案をし、表情や仕草より希望を受け止め支援に繋げている。家族との面会は玄関先での窓越し面会を行っている。例年、年2回家族会を行っているが現在はコロナの影響を受け中止となっているが、収束後には再開する予定である。そのような中、利用者の様子は月1回発行されるお便り「かみやまだ・敬老園便り」でお知らせし、一人ひとりの状況については管理者が手書きの手紙を作成し、請求書に同封の上お知らせしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行う事業所の会議、毎朝の朝礼や面談にて職員の意見や提案を聞いている。管理者は管理者会議を通して代表者に報告、相談し運営に反映できるよう努めている。	月1回職員会議を行い、本部よりの連絡事項、利用者一人ひとりのカンファレンス、行事計画、業務改善についての話し合い、各種研修等を行いサービスの向上に繋げている。人事考課制度があり、目標管理シートを作成し毎月自己評価を行い、年2回目管理者による個人面談も行われモチベーションアップに繋がっている。合わせて毎年職員のストレスチェックも実施され職員の心身の健康管理に配慮がされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員ノートを作成し目標に向け実践できるよう支援がある。また、給与に反映される機会もあるため、張り合いをもって働くことができています。勤続年数に応じたりフレッシュ休暇や現在コロナ禍で実施していないが、職員研修旅行など福利厚生が充実し楽しみを持ちながら働くことができています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人には職員の研修や資格取得に対するサポートがあるため、働きながらスキルアップすることができる。現在、事業内研修を毎月計画通り実施しており、皆で学んでいる。法人外研修も受ける機会が確保されている。		

グループホームかみやまだ敬老園

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)		外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の施設部会に参加し地域の同業者さんと交流や意見交換・勉強会の機会があり、自事業所の運営やサービス向上に役立っている。また、法人内GH部会もあり、他事業所職員と意見交換や勉強会・交換研修などの取り組みがある。			
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時は、ご本人の不安が少しでも軽減できるようご本人・居宅のケアマネさんやご家族・主治医に意見や要望を伺いサービスを開始するようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時は、ご家族の不安や困っていることサービスに対する希望など伺い安心してサービスが開始できるようにしている。また、居宅のケアマネさんとも密に連携をとっている。ご家族の面会時などは近況報告などこまめに行っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族・居宅のケアマネさんなどと十分に話をする機会を設け、希望するサービスや必要としていることに対応できるよう努めている。職員間で情報の共有をし皆で検討しながら対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者が今までしてきたことややりたいことが継続できるよう支援している。料理・洗濯たたみ・裁縫・食器洗いなどをご利用者にさせていただいたり、一緒に行ったりし、必ずお礼の言葉をお伝えしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とご利用者本人の絆を大切にすることをもち支援している。現在は、面会制限があるが、通常は面会や行事の機会を大事にふれあいや絆と持つ時間を大事にしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、面会や外出は感染防止の為できないが、コロナ禍が終わった際には、通っていた教会やお墓参りに行きたいと希望するため実現のため支援したい。	通常であれば、友人、知人の来訪がありお茶をお出しし寛いでいただいているが、現在は時折電話での問い合わせがあるものの面会の自粛状態にあり、新型コロナウイルス収束後には再開する予定である。そのような中、通所デイサービスの利用者と地域の話を楽しまれたり、家族に電話をされる方もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お話の合うご利用者同士の関わりやご利用者がお隣の席のご利用者の手助けをする場面の設定をさりげなく行い支えあえるよう支援している。			

グループホームかみやまだ敬老園

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、近くにお越しの際は立ち寄っていただける関係やお話できる関係を大事にフォローお声かけしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの人生の背景を知るためご本人・ご家族にお聞きし、生活意向の把握に努めている。困難な場合は、スタッフ間でカンファレンスを行い検討している。	利用者本人が何を望んでいるのか提案をする中で、気の済むまで話を聞き、意向に沿えるようにしている。「おやつ」「飲み物」や季節に合わせた洋服選び等も幾つか提案して選んでいただくよう進めている。また、清潔な物をいつも着ていただき気持ちよく過ごしていただくことにも注力し、職員はこまめに洗濯をするようにしている。日々の気づいた言動等は業務日誌と申し送りノートに纏め、業務に入る前に確認し日々の支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お一人おひとりの生活歴、習慣の把握に努めている。生活の何気ない会話の中やご家族との会話、各スタッフの情報を共有しサービスにつなげられるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人おひとりの過ごし方や体調・力の現状を記録や申し送り・カンファレンスにて共有し現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のスタッフ会議で、課題やご本人の希望について話し合い、介護計画を作成している。また、ご家族と話し合う機会をもって現状に即したプランを作成している。	職員は1~2名の利用者を担当し、居室の整理整頓、備品の補充、日々のモニタリング、6ヶ月纏めてのモニタリング表の作成等を担当している。家族の希望は入居時や更新時にお聞きし、カンファレンスで話し合い情報を共有し、ケアマネージャーがプラン作成を行っている。入居時は暫定で1ヶ月のプランを作成し様子を見て、その後、基本的に短期目標6ヶ月、長期目標1年、状態に変化が見られた時には随時の見直しを行い、一人ひとりに合った支援に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別記録・日誌・申し送りを記録して気づきや様子を共有し、ケアの実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に応じ、受診の付き添いなど必要なサービスを提供している。感染状況が収まった際には、買い物や外食支援など提供していきたい。		

グループホームかみやまだ敬老園

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴や趣味活動などに地域のボランティアに入って頂いたり、消防署の方に参加して頂いて消防訓練を実施していたが、感染状況が収まった際には再開していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望で主治医を決定し、定期受診・また必要に応じ早めの受診につなげている。ご家族や主治医に情報提供・相談をし適切な医療が受けられる支援をしている。	入居時に希望する医療機関についてお聞きしているが、現在は全利用者が入居前からのかかりつけ医を利用しており、受診時には情報提供書を持参の上、家族と職員が受診対応している。また、契約の訪問看護師の来訪が月2回あり利用者の健康管理に当たっている。歯科については必要に応じかかりつけ医の受診対応となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	地域の訪問看護ステーションと契約をし、月2回の健康観察と随時の訪問・相談をして助言を受けている。必要時は医療へとつなげている。訪問時は、事前に情報提供を記入し伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、病院へ情報提供をし安心して入院治療ができるようにしている。入院期間中は病院の関係者の方より随時情報を提供していただき、早期の退院と受け入れができるように関係づくりをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族と緊急時や終末期について話し合い意向を確認している。また、随時心身の状態を報告相談し、必要なサービスの検討をし地域の事業所と連携を持ち支援している。	重度化に向けた指針があり、利用契約時に説明し同意を頂いている。終末期に到った時には改めて家族、医師、ホームで話し合いの機会を持ち、家族の意向を確認の上ホームとして出来得る支援に取り組み、法人内の他施設や近くの特別養護老人ホーム等への住み替えも含めた支援に取り組んでいる。ここ数年看取り支援はないが年2回看取り支援の研修会を行い知識を高め、取り組めるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員は心拍蘇生、AED使用の救急救命講座を年1回必ず受講し実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼、夜間を想定した避難訓練と年1回防災訓練を実施している。避難口や消火器の使用方法など確認し職員皆が防火・防災意識を高めるようにしている。	年2回、防災訓練を行っている。水消火器を使っての消火訓練、玄関先まで移動しての避難訓練、消防署への通報訓練、携帯電話を使っての緊急連絡網の確認を行い、防災意識の向上に努めている。また、2019年の台風19号の教訓を踏まえ、2020年の大雨の際には法人本部と連絡を取り合い、同じ法人の養護老人ホームへ無事避難することができたという。備蓄については「水」「食料品」が2日分準備されている。	

グループホームかみやまだ敬老園

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎年、接遇や身体拘束・虐待防止の研修を受け、声掛けや対応が尊厳を尊重しているものか皆で検討しより良い支援につなげられるようにしている。	利用者の尊厳を大切にし、安心できる声掛けと温かい言葉遣いに心掛けている。トイレ介助には特に気配りし小さな声でお誘いし、カーテンは必ず閉めるよう徹底している。また、利用者の前では他の利用者のことは話さないよう心掛けている。呼び掛けは苗字か名前を「さん」付けでお呼びし、居室に入室の際には声掛けと目的を伝えるよう徹底している。年1回プライバシー保護に関する研修会を行い、意識を高めつつ支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるように働きかけ入居者の意思を大切にしている。 意思表示が困難な方は表情、仕草などから読み取るようにしご利用者の意思をくみ取れるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員主導の支援にならないよう、随時話し合いを行っている。ご利用者のペースを大事に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回、美容師の方に来ていただき本人の希望に沿って整髪していただいている。着替えは好みに合った服を選ぶ、外出や行事ができるようになったら、お化粧や好みの身だしなみができるように支援したい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者と職員と一緒に食事の準備をしている。野菜を切ったり、炒め物、揚げ物などお手伝いしていただいている。また、季節の味を提供したり、お寿司やラーメンなど皆さんの好物を提供している。	自力の方が半数強、一部介助と全介助の方がそれぞれ若干ずつという状況である。献立は法人の栄養士が立てたものを一部アレンジして提供している。行事の際には利用者の希望をお聞きし、頂いた野菜等も使い、季節に合わせた料理を味わえるようにしている。お手伝いについては半数弱の利用者が積極的に参加しており、包丁を使つての調理から後片付けまで楽しんで行っている。今年の8月には毎年恒例の納涼祭をホーム内のみで行い「焼き肉」も楽しんだという。また、外食が難しい状況が続いており、時折、「持ち帰り弁当」や近くのパン屋さんから「サンドイッチの盛り込み」をテイクアウトし楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士が立てた献立をもとに調理している。食事量・水分量は毎食記録し体調管理に活かしている。必要な時は介助をしたり、ゼリーなどを提供し水分補給をしていただいている。		

グループホームかみやまだ敬老園

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ご自身で出来る方は声かけ、見守りを行い必要な方は義歯を外して介助等を行って口腔状態の確認を心掛け、一人ひとり合った援助で清潔保持をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレでの排泄に努めている。自力でトイレに行かれる方はさりげなく失禁の有無を確認しパットやリハパンの交換を交換をしている。自力でトイレに行かれない方には定時で声掛けをし排泄の失敗を減らせるように配慮している。	自立の方が三分の一、一部介助の方が若干名、全介助の方が半数弱という状況で、起床時、おやつ時、食事前、就寝前等の定時誘導に合わせ、一人ひとりのパターンに合わせ日中は全利用者がトイレでの排泄を心掛けている。また、排尿、排便の排泄記録はタブレットに纏め情報共有に努めている。更に、排便促進を図るべくお茶を中心に牛乳、スポーツドリンク、コーヒー、ゼリー等の水分摂取にも取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を記入することで一人ひとりの排泄間隔を把握し便秘にならないように注意している。食物繊維を多く摂取していただき水分不足にならないように気をつけている。出来るだけ自然排便ができるように支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	清潔が保てるように配慮し一人ひとりの体調や希望に合わせて週2回以上は入浴ができるように声掛けをしている。安全で気持ちよく入浴していただけるように必要に応じて介助、見守りをしている。	全利用者が何らかの介助を必要とする状況となっている。「名湯上山田温泉」が引かれているので硫黄の匂いを楽しみながら入浴している。週2回入浴を行い、受診の前日には必ず入浴するようにしている。入浴拒否の方が若干名いるが、誘い方に工夫をして入浴していただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や希望にそって、疲れが見られる方は、午前午後関係なく休んでいただく。基本は、夜間ぐっすり休めるように日中は活動していただいたり寝すぎたりしないよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法や用量については、薬剤情報提供書ファイルで確認し、理解に努めている。症状の変化により薬が変わるときは特に注意して確認をして、職員全員が把握するように、情報共をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かした役割を見だし援助している。コロナ禍で、安全にできる中で、ドライブや行事・好きなメニューの提供など支援している。		

グループホームかみやまだ敬老園

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、コロナ感染防止の為制限があるが、以前通っていた教会に行きたい、お墓参り、外食をしたなどのご希望をご家族・地域の皆さんに協力いただきながら支援していきたい。	外出時、自力歩行の方が三分の二、車いす使用の方が三分の一という状況である。天気の良い日には玄関前の庭に出て、畑の花や野菜を見て外気に触れている。新型コロナの影響を受け外出が難しい状況が続いているが、春には少人数に分かれ市内の「キティーパーク」にドライブを兼ね花見に出掛け、楽しいひと時を過ごしたという。コロナ収束後には年間計画を立て、家族の協力も頂き外出、外食を行う予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者がお金を持つことの大切さを理解し、希望に応じて、買い物支援などしていきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があるときは、ご家族に電話をし取り次ぐ支援をして、ゆっくりお話をさせていただいている。手紙が届いた際には、お渡ししたり読む支援をしている。職員が代行し写真をつけてお返事の手紙を出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混雑をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴室、トイレ等、プライバシーの配慮をしている。リビングは台所の隣にあり食事準備の音、匂いなどを感じながら家庭的な雰囲気の中で生活して頂いている。また花を飾り季節感を出したり、室温調節に気を配っている。	民家改修型の当ホームの玄関前には家主が丹精込めて育てた庭木等が数多く植えられ、家庭菜園と共に和らいだ雰囲気が醸し出されている。玄関を入ると高い天井のホールがあり、共用部分のキッチン、リビング、和室へと続き、落ち着いた家庭的な雰囲気を醸し出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関にはソファ、廊下には椅子が配置しており、一人になれたり、気の合った方同士一緒に過ごせるような空間がある。リビングの座席はトラブルないように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使いたく日用品や家具をお使い頂くことで安心して生活できるよう配慮している。	各居室とも整理整頓が行き届き、清潔感溢れる中で生活している。持ち込みは自由で、家族と相談し、衣装ケース、ハンガーラック、イス等が使い勝手良く置かれ、壁には家族の写真や誕生日のお祝いカード等も飾られ、居心地の良い生活を送っていることが窺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーや手すりの設置を設置している。各居室には氏名や居室名があり確認できるようにしているが、ご利用者が迷うような際はさりげなくお声かけしたりご案内して不安なく過ごせるように支援している。		